

第 2 回東区まちづくり懇話会 2部 各委員の御意見

他の委員の御意見・御提案を見ていただき、追加提案や御意見、感想などがありましたら、御記入ください。	
1	<p>12「子育て支援ネットワーク活性化事業」について、コロナ禍にあって会議や支援活動が困難な状態が続いています。このような中、子育てに関する事件報道を見聞きすることが多くなりました。民生員、包括支援センター等との連携を図り、性教育事業を展開しているNPO 法人やここさば相談員等が実施している地域での子育て活動への支援を行うことなどを提案します。</p> <p>また、自動の健全育成を目的に設けられている放課後の「児童育成クラブ」ですが、核家族化共働き世帯の増加、利用対象学年や利用時間の増加により利用者が増加しており、現在開設されて理字「コミュニティセンター」などの市設の狭隘が危惧されます。空き教室の利用が提案がされてきました。こどもの減少、新設校の設置等により既存の小学校の空き教室が見られます。</p> <p>放課後の児童の安全・健全育成、子育て世代の支援、世代間交流を取り入れた空き教室の利用の検討に併せ、指導員補充を含めた育成クラブの拡充が望まれます。</p>
2	<p>地域の情報ネットワーク活性化支援事業で、荻野委員の意見に賛成です。またその他の意見でも多く出ていた ICT が日常的に身近なものと思える環境を提供することが必要と思います。ささえりあ保田窪では県立大学の学生さんや司法書士、介護事業所等に協力いただき、毎月 ZOOM 養成講座やスマホ講座をトヨタの場所をお借りし、実施しています。講座を受講された方は公式ラインや毎週オンラインで実施している健康トレーニングへ友達登録され、体操や口腔、栄養その他の介護予防に関する講話へ参加されたり、ほか動画の視聴など活動の場を持たれています。参加者は民生委員や老人会、地域住民の方々です。</p> <p>西森先生が地域活動促進事業について子供に焦点をあてて内容を検討してみてもと言われており、当圏域の多世代参加型の地域食堂でも、子供さんが参加すると親御さんも一緒の場合が多く、参加者増につながっています。</p>
3	<p>各委員は、各々多様な意見を出されている。あとは、これをどのように事業の改善に反映していくか、市の努力に期待します。</p>
4	<p>追加提案ではないのですが、最近いろいろな箇所でコロナ禍で地域の活動が思うようにできていないと聞きます。それにより、地域のつながりも希薄化しているようです。</p> <p>防災にしても福祉にしても子育てにしても地域のつながりはとても重要だと思いますので、コロナ禍であっても地域でつながりを感じられるような活動ができるようなメニューを考案できるといいなと感じました(とはいえ、妙案はないのですが)。</p>
5	<p>・参考にすべき意見が沢山あり、意見交換の場・時間が欲しいと感じました。また、ICT の活用という言葉が自治会活動や社協活動など多方面で見られます。共通のキーワードを抽出し、事務局の方でまとめていただくと課題等や特性が見えやすいのかなと思いました。</p> <p>・市民アンケート集計ですが、安心・安全面の関心度が高いのは納得しました。自治会活動への参加・意識が低いこと、自治会の必要性をあまり思わない意見など考えさせられる項目が多々ありますね。皆が参加できるように出会う機会を増やすなど、自治会活動の考え方を見直す時期が来ているように感じました。前回調査との比較が可能ならばお願いします。</p>

6	<p>事業番号 16「美化活動啓発事業」について 持ち去り行為やルール違反は目の当たりにみえています。他区、他の自治体も悩みは同じだと思います。他の良い成功事例を共有する方法は無いのですか？</p>
7	<p>私も ICT 技術のスキルアップは早急に必要だと思います。 自治会単位で進めるにしても個人差が大きくて、講座を受けるにしても事前のレベルの調査は必要かと思います。 ほとんどのの方がお持ちのスマホでできるところからメールやグループ LINE などの活用ができればかなり便利になると思います。(今回の回答もオンラインでできるので助かります。連休だと郵便も時間がかかりますので間に合いません。)</p>
8	<p>旧区民祭りについて、新しい形での開催に区としてどういう関わり方をするのか。 また食と健康まつりとするなら地元企業(えがお)などとこれまでの協賛という形ではなく、他区のようにタイアップみたいな感じにするなら主催の負担も減り、区民も満足度も上がるのではないか。</p>
9	<p>ICT の活用については必要性があるという意見が多いので、若い世代(例えば県立大学のゼミの学生さんなど)との交流を通して教えてもらえる機会があったりするなど、具体的な活動ができるとういかと感じた。また、その際、防災アプリなどを活用してみると防災への意識も高めていけるのではないかと感じた。 家庭訪問する際のちょっとしたチラシが持参できればというご意見について、障がい者支援に関するものであれば、障がい者相談支援センターでご用意ができますので、お声をかけていただければお持ちできるかと思います。</p>